

重度障害者・高齢者の外出支援プロジェクト ～韓国における外出支援の格差解消に向けたノウハウの普及・展開～

South Korea 韓国

氏名 Cha Nam Hum チャー・ナムフン（2期）

所属団体 ホーム・シェアリング・ナーシング・センター



韓国

慢性疾患の高齢者や重度障害者の在宅生活を専門的に支える当団体は、韓国における新たな「外出支援モデル」の構築をめざす事業を始動します。現在、韓国の公的外出支援は医療目的に偏り、深刻な供給不足（待機者問題）に直面しているほか、民間の支援も当事者主体のニーズに十分応えられていません。そこで本事業では、職員の専門性向上研修と当事者主体の外出支援プログラムを一体的に展開します。利用者の生活の質（QOL）向上や自己肯定感の回復を図るとともに、確立した先進的な支援ノウハウを、将来的に韓国全域へ普及・波及させていくための基盤づくりを目的とします。

所属組織の概要

慢性疾患を抱える65歳以上の高齢者と、重度の障害がある人が、健康な社会生活を維持しながら家族と共に安定した生活を送れるように支援しています。介護専門スタッフを配置し、身体的・情緒的支援を展開しています。

事業の目的

本プロジェクトは、高齢者や重度障害者の生活の質（QOL）向上をめざし、職員の専門性を高める研修と「外出支援プログラム」を一体的に展開するものです。

現在、韓国では公共政策としての外出支援制度（主に通院等の医療アクセスを目的にしている）が存在するものの、利用希望者に対して対応できる専門機関やリソースが圧倒的に不足しており、実質的に利用が困難な待機者が多いという深刻な課題があります。また、民間団体やボランティアによる支援も経済的な問題から単発のイベント的な内容であったり、供給者本位の内容に留まりがちで、当事者の真のニーズに応えられていません。

こうした背景から、本事業では高齢者や障害がある人の身体的・情緒的安定、社会リハビリテーションの推進、自己肯定感の回復を図るとともに、真の当事者主体となる外出支援モデルを構築し、将来的に韓国全域へこの取組とノウハウを波及・展開させていくための基盤づくりを目的としています。

活動地域

韓国全域

対象者

- ・長期療養等級※を取得した65歳以上の高齢者
- ・脳卒中等による中途障害者（成人）

※「老人長期療養保険制度」における等級。



韓国

事業の成果

要介護の高齢者や重度障害者に対し、従来の制度ではカバーしきれなかった「当事者が本当に望む場所への外出支援サービス」を実施しました。地域に出ていく機会が少なく、精神的に萎縮していた方々が、自ら行きたい場所を選び、プログラムの企画から参加することで、社会の一員として「共に生きる」ことへの希望を見出す一助となりました。実際に外出支援を行った際には、参加者の皆様から心からの喜びと幸せに満ちた笑顔が見られ、非常に高い満足度とQOLの向上を達成できたと評価しています。

職員やボランティアと12回の研修を行うなかで、外出支援が高齢者や障害がある人の社会参加につながる可能性を全員が再認識し、自分たちの仕事に対する熱意や誇りを高めることにもつながりました。

実施内容

高齢者、障害者のQOL向上に向け、職員研修および社会参加のための外出支援プログラムを並行して実施しました。

〈職員研修・教育〉

2025年3月～2026年2月までの1年間、毎月1回の研修を実施しました。12回の研修テーマは以下のとおりで、対象者が社会に出ていく際の安全・安心を守り、動線確保やバリアフリー環境への配慮を的確に行えるよう、それぞれのテーマを丁寧に研修しました。

● 研修テーマ（全12回）

2025年

- 3月 外出支援プログラムの目的・趣旨の理解
- 4月 高齢者の人権および虐待防止
- 5月 障害者の人権と認識改善
- 6月 職員およびボランティアに必要な倫理指針の理解
- 7月 排便のサポートと脱水予防
- 8月 地域内で外出時に必要な社会資源の掘り起こしと共有
- 9月 セクハラおよび性暴力防止管理指針の理解
- 10月 転倒防止のための管理指針の理解
- 11月 筋骨格系の外傷および疾病予防
- 12月 緊急事態に対応するための指針の理解

2026年

- 1月 個人情報保護および適切な管理
- 2月 参加者からの評価、改善点の分析



〈障害者・高齢者の外出支援プログラム〉

職員研修とともに、計6回の外出支援プログラムを実施しました。

6回の外出では、国立顕忠院、西五陵、韓屋村と南山タワー、石村湖とロッテタワー、韓国民俗村、国立博物館への外出を計画し、職員とボランティアが支援に入りました。これらの外出先は、韓国ではあまりバリアフリー化が進んでいないエリアにあったり、静かな環境等の理由で行くことが難しいと言われたりすることが多い場所です。これまでも、高齢者や障害者から「行きたい」という希望が出ていながら、実現できませんでした。今回、職員研修を丁寧に行うことで、職員たちも参加者たちの希望をかなえようと前向きに外出先として選ぶことができました。



今後の展望

今回の活動を通じて見えてきた課題があります。それは、バリアフリー化が十分に進んでいるといえず、合理的な配慮が不十分な地域があるという点です。誰もが自由に移動できる権利を保障するため、社会や国がより積極的に取り組んでいくことが急務だと痛感しました。

こうした現状を踏まえ、今後は当センターを中心に、この実践で得たノウハウをもとに、韓国全域のバリアフリー化への取組を政府や自治体に働きかける継続的なキャンペーンを展開していく予定です。また、「外出支援サービス」に賛同してくださるボランティアや支援者の輪を広げ、今回の取組を単年度で終わらせず、今後も継続していきたいと考えています。

これらの活動を通じ、今後も、誰もがあらゆる場所にスムーズにアクセスできるような地域・社会をつくることをめざします。

収支報告

〈収入〉

項 目	金額 (円)	内 訳
全社協からの助成金	300,000	
自己資金	1,000,000	教育費30万円、プログラム費70万円
助成金	200,000	
寄付金	100,000	
合 計	1,600,000	

〈支出〉

項 目	金額 (円)	内 訳
① 職員研修・教育（全12回、各回50名参加）		
資料印刷・購入費	120,000	
講師謝金	120,000	
会議費	260,000	飲み物・軽食代
功労者表彰実施費用	120,000	
② 外出支援プログラム実施（全6回、各回50名参加）		
交通費	180,000	電車、ケーブルカー、障害者タクシー運賃
貸し切りバスチャーター代	80,000	2台×2回分
会議費	590,000	飲み物・食事代
文化体験参加費用	130,000	施設入場料、体験料
① ② 合 計	1,600,000	